

モーリシャス豆知識・小話 第2号

2017年6月

(1) モーリシャスの失業率

6月はモーリシャス国会に政府の予算案が提出され、7月からまた新たな会計年度が始まります。たばこなどの嗜好品の税金は引き上げられますが、他方でパン屋さんにとって必需品の小麦粉などの原材料は引き下げられるようです。

モーリシャスって観光立国ですが、経済状況はどうなのでしょうね。昨年12月現在の当国の全体の失業率は7.3%、16歳～25歳未満の失業率は23.9%だそうです。特に若者に職が少なく、優秀な人ほど海外留学などに出たらそのまま帰ってこないと言われますが、モーリシャスの将来のためにも是非帰ってきてほしいですね。そのためにも堅実な経済成長が望まれるところです。



(2) モーリシャス人の約束～ある勝手な一考察

モーリシャスに来て何が腹立たしいかと言ったら、なかなか約束が守られないことでしょうか。気軽に笑顔で約束はしてくれます。明日お届けしますという商品配達、明後日10時にお伺いしますという修理業者、レストランで頼む食後のコーヒー。仕事上でも、あとでメールしますとの約束。でもちゃんと実行されるかどうかはわかりません。かなり社会的地位のある人でも守らない人がいます。

思わず人間性まで疑いたくなりますが、そうした中最近、アフリカにある他の我が国公館の人からこういう指摘がありました。「アフリカ人にとって、約束することと守ることは、別概念である」と。目から鱗、思わず膝を叩きました。モーリシャス人が厳密な意味でアフリカ人かどうかはさておき、彼らにとって約束するとは、相手の意向を受け入れてやることであり、つまりはそこで既に一定の好意やサービスを提供しているということかもしれません。約束したことを実施するのは、更なる好意やサービスの提供なのだから、彼らの頭のなかには実行しなかったからと言って約束を破るというネガティブな発想はないわ

けです。道理で約束を破った人が涼しい顔でまた私の前に現れるわけだ。「できない約束はするな」、子供の頃に親から教わったことを大人になっても頑なに守っている私を見て、ひょっとしたらモーリシャス人はこう思っているのかもしれない。「約束してやれば相手も喜ぶだろうに、自分の勝手な理由でやらないなんて、この日本人の人間性を疑うよ。腹立たしい…。」

※モーリシャス人の名誉のために付け加えれば、大方のモーリシャス人はちゃんと約束を守ります。モーリシャス人が約束を守らなかったからといって、全てが上記の考察の通りというわけではないので、念のため。